＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

北条高等学校　英語パワーアップ学習

～英語科教員と、職員室の全員が一丸となって取り組んだ日々の記録～

衣　川　顕　子

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

はじめに

北条高校は、「POWER UP HIGHSCHOOL」『～頑張る人をあたたかく応援する学校～』をスローガンに、生徒の力を最大限伸ばし、校訓「自律・協同・剛健」のもと、厳しく自分を律し仲間と共に高めあい心と体を鍛えることで、生きる力や志や夢を実現するために未来を自分で切り拓く力を培っています。また今年度、県教育委員会から「ひょうご学力向上サポート事業」の「アクティブ・ラーニングの視点から学習・指導方法を研究する」学校として指定を受け、生徒の学力向上を図っています。

また、今年度から総合人間系コースの「人間創造コース」を新設し、グローバル社会を主体的に生きるために必要な思考力、コミュニケーション力、課題解決能力の育成を目標としています。コースでは、学校設定科目の中で体験活動や探究活動を実施し、ＪＡＸＡ（宇宙航空研究開発機構）や国土地理院等の施設や大学研究室の訪問、教育や医療機関での実習等、学ぶ環境を充実させています。

平成25年春に赴任して以来約４年間、英語科主任として「英語パワーアップ学習」を展開し、現在人間創造コース委員長兼コース担任として奮闘しています。

１　英語パワーアップ学習

(1）現在の取組概要

基礎的な内容に重点を置いて毎日英語を勉強する習慣を身につけさせ、英語が不得意でも頑張れば合格できる仕組みで「POWER UP 賞」を進呈し、さらに「POWER UP 大賞」として表彰して、生徒のモチベーションを高めています。また、外国語指導助手（ＡＬＴ）を最大限に活用した授業を展開し、英語で伝える力を伸ばしています。さらに、オーストラリアやタイ王国での海外研修にも力を入れてコミュニケーション力を育成しています。

（2）４年前の状況

当時の北条高校の生徒の学力は、平成25年度入学生が４月にスタディーサポートを受験した結果、英語の平均GTZがC２ランクでした。７月のGTECから見えた姿は、「英語力は中２以下」。家庭学習の状況を調査しても、「ほとんど家庭学習はしていない」という生徒が大半を占める状態でした。

　（3）導入と取組内容

そこで、ほとんど勉強しない彼らに、朝の小テストを課すことから「英語パワーアップ学習」の取り組みがスタートしました。

　　ア　小テストの実施

導入当初は、週５日毎朝のSHRで英語小テストを実施しました。（途中からは漢字テストを１日含めて週４日実施に変更）

①　範囲　10ページ

50 個の単語から10個出題（単語を書き取る形式で出題）

②　合格点　10点満点で７点以上

６点以下の生徒は、練習用紙（×書きシート）を提出してから帰宅

③　点検

放課後に17時30分に練習用紙回収箱を点検

練習用紙（×書きシート）が未提出であれば翌日倍返し！

　　　④　POWER UP 賞

満点（10点）取った生徒には、合格スタンプを押し、10個たまるとPOWER UP 賞（副賞　学食の100券）を進呈（財源はＰＴＡ）

さらにPOWER UP 賞５回で、POWER UP 大賞の表彰を実施

⑤　不合格者の指導

一定の期間内に一度も合格しなかった場合には、不合格者の集いを実施

「不合格者の集い」とは、×書き→テスト→×書き→テスト･･･を繰り返し満点を取るまで帰宅できない恐怖の取組

　　※　これを継続してやり続け、生徒に「書く」ことを習慣化しました。

小テストによるパワーアップが軌道に乗り始め、次のステップとして自学自習課題に取り組ませることにしました。

イ　自学自習課題の取組

週末課題と呼ぶより、月刊課題と呼ぶ方がふさわしいかもしれません。生徒のレベルが３極化している現状から、値段が同じでグレードの異なる問題集を与えました。

(例）UNITEや、Seek、Evolutionなどを各自のグレードに合わせて個別に配布し、個々の英語力に従って、家庭学習を推進しました。

生徒の誰がどのグレードを選ぶかは、見本を並べて各自で学力に合わせて選ばせ、悩む生徒の相談には個人的に相談に乗り、納得して教材を手にするように工夫しました。

１冊を45日程度で終えるようなペースで進め、入学以来10ヶ月の１月現在で６冊が終了している状況です。

生徒にとっては、自分の学力に合った教材を使用して、少しはモチベーションがアップすると思いますが、配る教師側は、結構ややこしく混乱しますけどね(笑)。

　　ウ　課題未提出の生徒への指導

２～３ヶ月ごとに、「つどい」と称して居残り学習会を企画しています。

英語だけではなく、他教科の課題がたまっている生徒を、国語や数学とタイアップして、ちょっと怖い顔をして居残り学習をさせています。絶対許してもらえないという雰囲気と経験を積み重ねることにより、課題からは逃げられないという概念を植え付けて、やがては自発的に取り組むようになっていきます。今年度は、学年当初は30人ほどいた「つどい会員」も徐々に減り、今では常連が２～３人くらいに減っています。

英語学習が、ある程度「独力走行」できるようになると、生徒にはあまり手がかからなくなります。やるべき事柄をこちらからペースメーカとして提示してやれば、特に成績上位の生徒はついてきます。少ない教員人数で、上の子も伸ばす必要があるため、教師側も作戦を常に考えている状況です。

エ　英語と数学中心の個別学習サポート

英語は、英作文と英文エッセーを中心とした個別指導を行っています。３年生くらいになると、多い日では英語科の教員１人が約10人の添削指導をしています。特に、スタート地点では、自分で問題を探せない生徒が多く、教師がその生徒にふさわしい課題を選んで渡すところから始めています。「○○大学入試問題　解いてみて・・・」という風にプリントに印刷したものを渡して、ノートに貼って、解けたら提出させる。添削して、次の課題を付けて返却･･･という形式で進めています。

数学は、校長先生も参戦して、ひとりひとりに声かけしながら励まします。

おそらく、８クラス規模の大規模校だと、教師から声もかけてもらうことなく、ひっそりと、どこかに進学したかもしれないタイプの生徒が、本校では４クラス規模であるが故に、校長先生からもひとりひとり声をかけてもらってノート添削指導をしてもらう、ありがたい取り組みを行っています。

　　オ　カードリーダーを使ったマークテストで文法力のパワーアップ

「基礎スクランブル（旺文社）」を使って、頻繁にマークテストを行っています。50問～100問の出題をして合格ラインを決めて、追試を実施しています。

問題集に付属している作成ソフトを使用して楽々作成し、テスト後は、カードリーダーを利用して処理するので、教師に採点の負担がなく、即日返却が可能です。「テストをするよ！」と事前予告すれば、ほとんどの生徒が、追試が嫌なので勉強をするようになります。

全学年が同じ教材を持ち、「基礎スクランブル」を、３年間ぼろぼろになるまで反復使用をしています。１年生も２学期から、このテキストを購入し、テストを始めています。

全学年が同じ教材で同じように100問マークテストをするので、抵抗なく取り組めるのがいいですね。

今年の冬休み前も、「冬休みを勝ち取ろう考査」というものを実施して、結局最後の生徒が冬休みを勝ち取れたのは、12月27日でした。延々と追試を繰り返し、とうとう12月21日実施の本試験から約1週間かかって、スローラーナーはようやく冬休みを勝ち取りました。

２　アクティブ・ラーニングの取組

　(1) 県教育委員会からの指定

本校は、今年度から「ひょうご学力向上サポート事業」の「アクティブ・ラーニングの視点から学習・指導方法を研究する」学校として県教育委員会から指定を受け、生徒の主体的・協働的な学びを推進する取組を研究しています。

今年度は、県教育委員会高校教育課の英語科の訪問指導を受けるとともに、アクティブ・ラーニング研究指定校として、第３学区の高校教員や市内の中学校教員を招いて公開研究授業を行うことになりました。

(2) ＡＬＴの活用

英語の授業は、オールイングリッシュでやらねばならないというこのご時世なので、この生徒達を相手に、どこまでやりとげられるか･･･！？大変不安でした。しかし、やらねばならない。

そんな状況で、今年の１年生からは、ALTと一緒のＴＴ授業を週に１回だけでなく、可能な限りほぼ全ての英語科の授業をオールイングリッシュで行ってきました。

３年前に初めてオールイングリッシュで授業を行うように言われた時、当時から指導をして頂いている関西大学の田尻悟郎教授から、「自分が英語をしゃべって力をひけらかすのではなく、生徒が英語を話し､英語を使う指導を行ってください。」と助言して頂きました。英語の授業で、生徒が沢山「読んで」「聴いて」「話す」ように工夫してきました。

最近では、ALTと共に、スピーキングテストやプレゼンのテストも実施しています。中学校２年生以下と思われる学力で入学した生徒でも、やればできるようになることを確信した訳です。

(3) 粘りと継続の指導

これらの経験を通して、何事も教師側の粘りが必要であり、教師が粘れば生徒はサボらずに努力することを確信し、教師の粘る努力の大切さを痛感しました。

毎日、プレゼンテーションやスピーキングの課題を生徒に課していくと、やがて生徒も、その流れに合わせて動くようになるということが、今では本校では証明されています。

英語の勉強は、本当に生徒自身が毎日取り組まなければ、絶対に成果がでないし、我々教師は、教える指導力よりも生徒達に継続を促す指導力の方がむしろ必要ではないかと感じています。

　特別にレベルの高いことを教えているわけではありません。「そこそこ、いい感じの英文を読む」という活動を、来る日も来る日も休まずに継続してサポートをしている感じです。

このような指導で十分かどうかはわかりません。もっともっと生徒の学力を伸ばす指導方法はあると思うのと、生徒にもまだまだ伸びしろがあると感じています。これからも、とにかく教師側が働きかけを続けて行くことが大切だと思っています。

３　アフタースクールゼミの実施

　(1)　北条高校活性化協議会の設置と支援

加西市役所と加西商工会議所が、本校ＰＴＡや同窓会などを巻き込んで、本校の活性化を目指して、２年前に「北条高校活性化協議会」が設置されました。そして、その事務局が市役所の「ふるさと創造部人口増政策課」に設置され、地域のＯＢや商工会に呼びかけて寄付を募り、年間約500万円の予算を北条高校の活性化のために使われています。市役所の部署が直接県立高校を支援する組織は、県下で初めての試みと思われます。

(2)　河合塾によるアフタースクールゼミの導入

通学バスの支援やオーストラリア海外研修などの補助などの支援に加えて、

最も大きな取組が、河合塾による「アフタースクールゼミ」です。

昨年度から毎週、英語と数学の２科目を各１回、放課後の部活動が終わる時間に、河合塾から講師を招いて、希望生徒が講義を受けるというシステムです。

費用の大部分が、この活性化協議会が負担し、生徒の負担は１レッスン90分を1000円で受講できるというシステムです。現在約60名が受講しています。

学校での授業や土曜講座に加えて、さらに学力を付けたい生徒を対象に実施し、国公立大学進学を目指して切磋琢磨しています。

(3) 兵庫教育大学大学院生による基礎コースの開設

今年度２学期から、河合塾の講座のレベルについて行くのが困難な生徒のために、河合塾の講座に加えて、兵庫教育大学大学院生を招いて基礎コースとして、毎週、英語・数学・理科の３教科を各１回、寺子屋形式の個別指導を開始しました。基礎コースは、１講座90分500円の個人負担で受講することができるので、現在、約50名の生徒が受講しています。大学院生の丁寧な指導に、生徒はいい雰囲気で意欲を持って取り組んでいます。

英語科の教員が一丸となって、英語パワーップ学習の取組を頑張っていますが、さらに意欲のある生徒は、基礎学力を定着させるために、アフタースクールゼミを積極的に活用して、学力向上を目指しています。地元地域が必死になって支援して頂いていることを忘れずに頑張りたいと思います。

４　人間創造コース

(1) 人間創造コースの設置

　これまでの「教育類型」で培ったノウハウを基礎に、グローバル社会を主体的に生きるために必要な思考力、コミュニケーション力、課題解決能力の育成を目標として、今年度に第３学区で唯一の総合人間系コースの「人間創造コース」が設置されました。

このコースは、学習面での特進コースというわけではなく、人間力を高めるための取組、具体的には多くの課外活動やボランティアなどの体験活動や探究活動を実施して、インターンシップやＪＡＸＡや東京未来科学館、国土地理院などの施設見学などにも力を入れています。

　(2) コース委員長兼担任として

人間力を高めたいと希望して入学した40名の１期生達が、現在このコースに在籍しています。

今年は、私がそのコース委員長を務めながら１期生の担任をしています。４月の入学以来、大学の出前授業、ボランティア、インターンシップ、研修会、地域との連携事業など、沢山の活動に生徒と一緒に参加し、私自身も、この年齢にして、人間力がアップしたような気がしています。（笑）

　これらの活動の先に目指す目標の一つとして、大学の推薦入試やＡＯ入試を上げています。人間力アップ＝堂々と自己ＰＲをし、プレゼンテーションする力を養う･･･。この目標を掲げ、生きる力の支援をしています。

現在、人間創造コース１期生の様子を見て、やはり他の３クラスとは全く様子が違う状況であると感じています。生徒自身が自ら動いて経験したことは、自分を裏切らないということですね。

５　全教員での取組

北条高校は、若手が多い学校ですので、「経験」という点では、まだまだ未熟なことが多いく、教師にも「学び」が必要であり、沢山の研修会を行っています。

おそらく他校の先生から見ると、「また研修か！？もう、うんざりするなあ。」と思われるくらい多いかと思います。

何をするにも、まずは研修会。保護者と３者面談をする前にも、やり方研修会。小論文の指導を個別に始める前には、小論文の添削指導の仕方の研修会。もう知っているはずの人も参加を求められます。場合によっては、先輩教師が講師となってグループ研修を実施しています。

土曜講座や面接指導にも、校長先生や教頭先生も含めて全教員で実施しています。先輩教員が見本となり、学年団を超えた指導体制が構築されています。

このように、あらゆる指導に対して、全教員で生徒の指導にあたる･･･という形が、北条高校の指導スタイルです。

６　おわりに

初めに述べたように、４年前に北条高校に赴任し、68回生の１年生担任となりました。そして、最初のＧＴＥＣを受けた結果が、「この子らの学力レベルは、中学校２年生以下です。」という宣告を受け、これが戦いの始まりでした。

とにかく、「少しずつでもこれを上に向けていけるよう頑張ろう！」と、彼らと真剣に向き合い、時々真剣に怒っている（ふり）をし、劇団ひとり状態も多々演じながら３年間を過ごしました。オールイングリッシュなんかどこへやら･･･１時間中罵詈雑言の説教で終わった授業も１回や２回ではありません。

しかし、過去の経験から感じたことがあります。本校で３年間を過ごした生徒たちは、きっと頑張るだろうと。毎日のほんの小さな変化に対しても教師が声をかけ、褒めたり、注意をしたり、ちょっと冗談を言ったり。時には教師の思いが伝わらず、反発や反抗もされますけど、どんな状況にあっても、私達が関わった生徒達は、最後に底力を見せてくれるのではないかと。

本校の英語科の教員は、他校と同じく沢山の仕事を抱えて多忙です。パワーアップハイスクールという取組は、常に英語が中心で、英語力がこの取り組みの勝敗を決めると言っても過言ではありません。でも、「楽しんどい」んです（笑）。

私達教員が諦めたら、生徒も終わります。私達が励まし、お尻をたたけば結構生徒も走ります。でも、油断したら生徒は緩みます。１年生や２年生では、特にこれが顕著で、「誰のための勉強やねん！！」という状態で、教師側の力が試されていると思います。

２年後には、人間創造コース１期生が卒業します。そのころ、この活動がどうだったかを、また胸を張って報告できるよう、明日から頑張りたいと思います。

英語科の先生方、これからも、みなさん、ファイトファイトで頑張りましょう。

（きぬがわ　あきこ：県立北条高等学校）